

みちのく潮風トレイル全線開通

■歩くための道

みちのく潮風トレイルは、青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までの海岸線を中心に設定された「歩くための道」です。

この取り組みは、世界のロングトレイルの文化を日本に紹介してきた加藤則芳氏が「三陸海岸の国立公園を通るナショナルトレイルを官民協働で」

■コースの特徴

全長千キロメートルを

という提唱を発端とし、環境省の東日本大震災の復興事業の一環で進められてきました。トレイルのルートは地元の方々からの意見を通じて設定され、平成25年11月以降部分的に開通してきましたが、本年6月9日に全線が開通し、「一本の道」となりました。

超えるこのトレイルの特徴は、東北太平洋沿岸ならではのダイナミックな海、川、里、森と連続する美しい景観です。自然と共にある人々の暮らし、積み重ねられた歴史・文化は、厳しくも豊かな自然の恵みと重なり合いながら、いまに繋がっています。歩く中で生まれる人との温かな交流もこのトレイルの大きな魅力の

■情報発信

ひとつです。

このトレイルを楽しく安全に歩いていただくために、トレイル沿線にビジターセンターなどの拠点施設を設置しており、県内では、名取市にトレイルセンター、南三陸町と石巻市にビジターセンターがそれぞれ設置されています。詳しいルート・施設の

情報、専用マップなどはホームページでご確認ください。



環境省「みちのく潮風トレイル」

■問い合わせ先

市観光課 施設管理係
☎(22) 3438



みちのく潮風トレイル全線開通記念イベント

気仙沼唐桑半島トレイルウォーク参加者募集

自然豊かな唐桑半島の巨釜から御崎の約7kmのリアス式海岸のトレイルコースを歩いてみよう！

- 日時／7月14日(日)
午前9時から午後1時30分まで
- 場所／巨釜～御崎
- 受付時間／午前8時45分から
- 集合場所／巨釜駐車場
- 料金／2,000円(ガイド料・保険料・昼食代)
- 定員／30名(電話で申し込みください。定員に達し次第締切)
- 申し込み・問い合わせ先／
唐桑町観光協会 ☎32-3029





第90回 来てくれ！カツオ

この原稿の序内締切りは 6 月下旬早々、この時点で5月 14 日の初水揚げから 3～4 日続いたカツオ船の入港に後続がなく、水産系全国紙のトップ記事は「生鮮カツオの一大産地・気仙沼『ひと月以上水揚げゼロ』」と報じています。

本市の市の魚は言うまでもなく「カツオ」。かつてのように近海マグロ船が周年を通して毎日複数船入港し、サンマ漁も三陸沖が主体だった時代とは違い、「カツオ」は本市の押しも押されもせぬ主役であり、「生鮮カツオ水揚げ 23 年連続日本一」が浜の人たちにとっての今年の目標であり、日々心配が募る状況です。

解説によれば現在の漁場は近畿・東海沖、昨年は関東の東沖にあったことに比べ、漁船が気仙沼までカツオを運んでくる状況にないとのこと。一日も早い、魚群の北上を願うものです。

カツオの好不漁は魚に直接携わる方々だけでなく、製氷、製函、運送など多くの産業に影響するほか、食のまち気仙沼の代表選手「カツオ」を期待して訪れる観光客の皆さん、つまり気仙沼の飲食店はじめ観光関係者にとっても影響が大きいのです。

折しも、宮城県の本年度の観光キャンペーンのキャラクターは「サザエさん一家」、7 月に予定されている「気仙沼かつお祭り」でも「カツオくん」の活用が計画されています。

近年「熟成」が取りざたされるマグロ類と違って、カツオは鮮度が命、首都圏の高級店でも気仙沼で食べるカツオにはかなわないはず、宿泊型観光のとても大事なコンテンツです。

この広報が市民の皆さまの手元に届くころ、なんとかカツオに来てもらい、本コラムが杞憂として笑い飛ばされることを切に願っています。いわゆるマーフィーの法則* としての役割を果たせばとても嬉しいところですよ。



©長谷川町子美術館

菅原 茂 気仙沼市長



*「こういうことをすると、不思議とこうなる」数々のユーモラスな経験則